令和６年度　一年間の教育・保育に対する自己評価

ゆたか保育園

たんぽぽ組

月齢差はあったが成長の速さが同じようであった為、生活面においての興味・感心が同時期に芽生え、挑戦しようとする姿が見られた。個人差に配慮しながら個々に対応することができたと思う。

ちゅうりっぷ組

初めての進級に戸惑いながらも保育者と好きな遊びを見つける事で安心し楽しく過ごせるようになってきた。身のまわりの事についても一人一人の対応を考えて配慮することが出来た。

ばら組

生活面では、一人ひとりのペースを大切にしながら、手洗いや身支度など自信を持って行えるよう見守っていった。だんだんと習慣になり、「できた！」という気持ちを感じられていた。集団遊びなどを通して、友だちの存在を意識できるようにしていった。遊びを通して言葉のやりとりも増え、友だち同士で誘い合って楽しむ姿も見られた。

ゆり組

一年間で友達との関わりが広がったり、深まる姿が見られた。子ども同士のトラブルもあり、自分の思いを上手く言葉で伝えられない様子が多く見られたが、保育者が間に入り、言葉を補ったり、その場に適した言葉を繰り返し教えていったことで大分できるようになってきたと感じる。保育者が間に入る時は相手の気持ちに気づけるようにすることを特に心掛けてきた。友達との関わりの中でルールを守ることの大切さや時には我慢することを覚え、皆でゲームを楽しめるようになった。友達から刺激を受けて成長していく姿が沢山見られたので良かった。

さくら組

進級当初から気持ちが高まり過ぎて、収集がつかない事が多々見られたが、運動会や発表会などの行事を経験するにつれて、少しずつメリハリのついた行動が身についてきた。また、子ども達が楽しめるような環境を作る事により、消極的な子も伸び伸び過ごす事ができるようになった。

すみれ組

毎日の生活の中で自分の持ち物を管理できるようになった。砂や水を使った遊びで、アイディアを出し合い分担しながら遊びを展開させていくようになった。自分の思いだけでなく、友達の話を聞き、共感や一緒に楽しむように成長した。発表会・遠足等、友達と楽しい経験をすることで仲間意識や自信が付き、自己表現できるようになった。